

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 7 月 4 日現在

機関番号：84516

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381148

研究課題名(和文) 教育開発における東南アジアモデルの構築 - 南南教育協力への適用 -

研究課題名(英文) To establish a model of educational development in South-east Asia for the application to South-South educational cooperation

研究代表者

村田 翼夫 (Murata, Yokuo)

公益財団法人未来教育研究所・その他部局等・研究員

研究者番号：10000085

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：東南アジアにおける教育開発の特質を調べ、東南アジアモデルとなり得るものを探求した。共通の教育としては、宗教教育、多文化教育、ASEAN市民の教育などがみられる。また、主要国でハブモデルと考えられるのは、タイのボーイスカウト活動、平和センターの教育活動、タイ・ラオスの学校と寺院の協力、フィリピンの国立理数教育研究所およびマレーシアRECSAMの理数教育の研究と研修、フィリピンのサイエンス・ハイスクール、インドネシアの教員研修制度、マレーシアの女子・女性の平等教育などである。これらの教育は、先進型モデルとも呼べるもので、他の開発途上国に対する南南教育協力のモデルにもなり得るものと考察した。

研究成果の概要(英文)：Examining the characteristic education in South-east Asia, we have looked for a model of educational development in the region. As a common education in the region, there are a religious education, a multi-culture education and ASEAN citizenship education and so on. In addition some countries conduct the charactersitic education which could be considered to be a hub model of South-east Asia. Those examples are as follows: the boy scout activities in school, Thailand, the educational activities of Peace Center, Thailand, the educational cooperation between a school and a temple in Thailand and Laos, the study and in-service training of teachers in UP-NISMED, the Philippines and RECSAM, Malaysia, the science high school in the Philippines, the in-service training of teachers in Indonesind and the equal education for girls and women in Malaysia. Those hub models would be called "an advanced model of educational development". It could be also a model of South-South educational cooperation.

研究分野：比較国際教育

キーワード：東南アジアモデル 教育開発ハブモデル 先進型モデル 多文化教育 南南教育協力

1. 研究開始当初の背景

研究代表者である村田翼夫、ならびに研究分担者(畑中敏伸、野津隆志、鴨川明子、中田英雄、内海成治)は、東南アジアの教育研究を行ってきた研究者である。それぞれの研究分野は、タイの教育制度、フィリピンの理科教育、タイの難民教育、マレーシアの女子教育、インドネシアの障害児教育、東南アジアの国際教育協力などと異なっているが、東南アジアの教育への関心は共通であった。また、教育協力者もタイ・ラオスの寺院の教育、タイ人の協力者は、有機農業教育(Organic Agriculture Education)、平和センター(Peace Center)の教育活動の研究を行ってきた。異なる研究背景を持つ研究者が共同で研究を行うことにより東南アジアの教育の共通性、モデル性を究明しようとした。

また、アフリカ地域や南米地域における教育行政官や教員、教育研究者の間では、従来モデルとしてきた欧米の教育が必ずしも有効でないことが明らかとなり、発展が著しい東南アジアの教育をモデルとして捉え考察したいという意欲が感じられた。そのことが本研究を進める動機となった。

2. 研究の目的

東南アジア諸国には多様な民族、文化が存在し、その教育にも特色がみられる。それらの教育の特色を検討し、共通の教育や優れた教育を調査しつつ教育開発のための東南アジアモデルの解明を目的とした。そのモデルは、他の開発途上地域の教育開発に対するモデルとして南南教育協力を資するものである。

3. 研究の方法

主に東南アジア諸国における実態調査(視察、インタビュー、アンケート等)によったが、日本語、英語、東南アジアの現地語の文献・資料の分析も行った。現地調査を行ったのは、フィリピン、タイ、ラオス、マレーシア、インドネシアの5カ国であった。また、研究分担者、研究協力者による情報交換や検討会も実施した。

4. 研究成果

収集した情報をもとに東南アジア共通の教育像を探るとともに、各研究分担者、研究協力者が研究した分野・テーマを中心に「教育開発におけるハブ・モデル」の構築を試みた。東南アジア共通の教育として、国民統合のための教育、英語教育、宗教教育、多文化教育、女子・女性の平等教育、ASEAN市民の教育などを挙げた。ハブ・モデルの中身としては、タイのボーイスカウト活動、タイとラオスの学校と寺院の教育協力、フィリピンのサイエンス・ハイスクール、タイの有機農業教育、マレーシアの女子・女性の平等な教育、フィリピンの国立理数教育研究所(UP・NISMED)の

研究と研修、マレーシア SEAMEO/RECSAM による理数教育の国際教育協力、インドネシアの教員研修制度、タイの地方大学による国際教育協力、南タイの平和センターの構築と異文化交流教育などを取り上げて検討した。全体的には、東南アジアのハブ・モデルは、その特質を考慮して「教育開発の先進型モデル」と名付けた。また、そのモデルは、南アジア地域、アフリカ地域、中近東地域、中南米地域などの諸国に対する南南教育協力のモデルにもなり得るものと考えられる。

作成した最終報告書(121頁)の目次は以下の通りである。

「はしがき

第I部 東南アジア諸国における共通の教育

1. 東南アジア諸国における共通の教育

村田翼夫

- (1) 国民統合と教育
- (2) 宗教教育
- (3) 英語教育
- (4) 多文化教育
- (5) 男女平等の教育機会
- (6) ASEAN市民の教育

2. アセアンの資料 平良那愛

- (1) アセアン加盟国の経済指標・人間開発指標
- (2) アセアン加盟国の教育指標
- (3) アセアン加盟国のPISA調査結果

第II部 ハブ・モデルとしての教育

第1章 タイの学校におけるボーイスカウト活動

村田翼夫

- (1) ボーイスカウトの導入と学校への取入れ
- (2) ボーイスカウト組織の確立
- (3) 学校における必修科目
- (4) 教育開発モデルとの関係

第2章 タイ・ラオスにおける学校と寺院の教育協力 平良那愛

- (1) 現地調査の概要
- (2) タイ・ラオスにおける学校観・寺院観
- (3) タイ・ラオスにおける学校と寺院の教育協力

(4) まとめ

第3章 タイの地方大学による南南教育協
力プログラム：ミャンマー、カンボジア、ラ
オスへの協力 野津隆志

- (1) ミャンマーへの教育協力を行
うナレスワン大学
- (2) カンボジアへの教育協力を行
うマハーサラカム大学
- (3) ラオスへの教育協力を行うコ
ンケン大学
- (4) まとめ
- (5) 補足資料 タイ政府の近隣開
発援助の二つの理念

第4章 Organic Agriculture Education
in Thailand Paiboon Suthasupa

- (1) Organic Agriculture
- (2) Basic Principles of
Organic Agriculture
- (3) Agriculture and Envi-
ronment Education in Schools
- (4) Status and Teaching Pro-
blems on Sustainable Agri-
culture at the Universities
- (5) Sufficient Economy
- (6) Conclusion

第5章 Peace Center in Yala: A Case of
the Suk-kaew Kaewdang Foundation in Sol-
ving the Conflicts in the Deep South of
Thailand Waraiporn Sangnapaboworn

- (1) Historical Background of
the Deep South of Thailand
- (2) The Role of an NGO for
Peace: the Suk-kaew Kaew-
dang Foundation
- (3) Youth Training: Building
the Future Leaders
- (4) Boy Scout Program for
Friendship
- (5) Cow Raising for Peace
- (6) Conclusion

第6章 マレーシアの「女子・女性の教育」
青年期女性の生涯設計と進路形成を事例に
鴨川明子

- (1) 国際的な「女子・女性の教育
」開発の動向と二つの課題
- (2) 東南アジアにおける女子児童
生徒と女性の教育機会の特徴
男女間格差の解消に向けて
- (3) マレーシアにおける青年期女
性の生涯設計と進路形成に関
する事例
- (4) 「女子・女性の教育」のマレ
ーシア・モデルの可能性と課
題

第7章 RECSAMにおける理数科教員の研修
プログラム 内海成治

- (1) SEAMEOとRECSAM
- (2) 1980年代のRECSAM
- (3) 現在のRECSAM
- (4) RECSAMの現状と今後の課題
- (5) 東南アジア教育モデルとして
のRECSAM

第8章 フィリピンにおける理科教育の推
進 フィリピン大学国立理数教育研究所とサ
イエンス・ハイスクール調査より

畑中敏伸

- (1) フィリピン国立理数教育研
究所 (UP NISMED)
- (2) サイエンス・ハイスクール
- (3) 終わりに： 理科教育におけ
る東南アジアモデルの可能性

第9章 インドネシアの義務教育段階にお
ける教員研修制度 中田英雄

- (1) インドネシア教育統計短報 (2
011/2012年度)
- (2) 教員の資格
- (3) インドネシアにおける教育の
課題
- (4) 教員研修制度
- (5) 終わりに：インドネシア教員研

修制度のモデル性

第10章 まとめ 東南アジアの教育開発に
おける先進型モデル 村田翼夫

- (1) 東南アジアの共通教育
- (2) 東南アジア諸国のハブ・モデル
- (3) 教育開発の多様な先進型モデル

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究
者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

・内海成治、澤村信英、山本香「南スーダン
における紛争後の初等教育と学校教育の実
態 教授言語の変更に着目して」比較教育学
研究第42号、2015年 52-65頁

〔学会発表〕(計3件)

・野津隆志、乾美紀「メコン川流域における
労働移動と教育支援ネットワークの形成」日
本比較教育学会、2014年7月13日、名古屋
大学

・畑中敏伸「フィリピン小学校教員の観察実
験指導の課題の解明 研修受講者の行う授
業の観察に基づいて」日本理科教育学会
第65回全国大会、2015年8月2日、京都
教育大学

・畑中敏伸、Chamnawong, P. “ Identifying
difficulties of elementary science teachers
in applying science inquiry teaching during
Lesson Study in Thailand, 9th World
Association of Lesson Studies
International Conference, 2015年11月25
日、コンケン大学

〔図書〕(計4件)

・野津隆志「タイにおける外国人児童の教育
と人権」ブックウェイ、2014年、240頁

・野津隆志「市民活動概論 ひょうごとアジ
アのNPO・NGO・ボランティアを学ぶ」学術研
究出版、2015年、234頁

・村田翼夫(編著)「多文化社会に応える市
民教育 日本・北米・ASEAN・EUのケース」
ミネルヴァ書房、2016年、301頁

・内海成治(編)「新版 国際協力論を学ぶ
人のために」世界思想社、2016年、400頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村田翼夫、公益財団法人未来教育研究所、
特任研究員

研究者番号：10000085

(2) 研究分担者

畑中敏伸、東邦大学理学部、准教授

研究者番号：30385942

野津隆志、兵庫県立大学経済学部、教授

研究者番号：40218334

鴨川明子、山梨大学教育学研究科、准教授

研究者番号：40386545

中田英雄、筑波大学人間総合科学研究科、
名誉教授

研究者番号：80133023

内海成治、京都女子大学発達教育学部、
教授

研究者番号：80283711

(3) 連携研究者

研究者番号：

(4) 研究協力者

平良那愛、京都女子大学研修生

Dr. Paiboon Suthasupa、Chiang Mai
University, Thailand, Former Associate
Professor

Dr. Waraiporn Sangnapaboworn, Office
of National Education Commission, Thailand,
Former Chief of Researcher